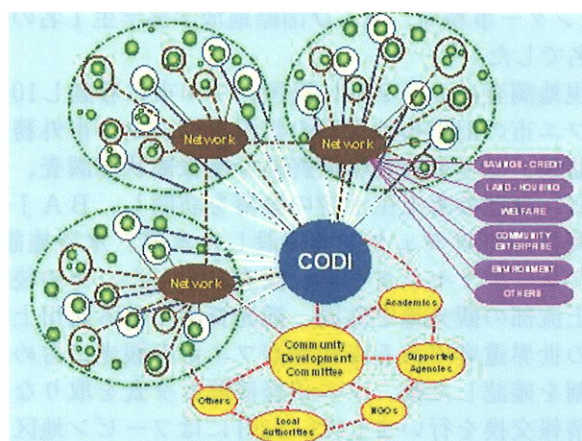


コミュニティ開発と社会運動としてのコミュニティネットワーク活動

東洋大学国際共生社会研究センター（オープン・リサーチ・センター）課題1-1 リーダー
東洋大学大学院国際地域学研究所 教授 高橋 一男

環境共生社会形成方策の研究グループ（課題1-1）の一員として、アジアの大都市を対象とした①環境改善を目的としたコミュニティネットワークの活動、②持続的な居住環境形成における混住型環境の可能性について、現場主義にたつてこれらの体系化を行い、地域開発、都市開発における主要な課題である環境共生社会形成に向けた方法論を模索してきた。

1960年代以降のタイに見られるスラム、スクワッターを含むコミュニティ開発の経緯を概観してみると、1990年代からタイ全土で行われているコミュニティネットワークの組織化とその展開は、社会運動論の視点から考察することが出来ると考えている。その背景には、行政主導のトップダウン型のコミュニティ開発から地域重視のボトムアップ型のコミュニティ開発へと大きな政策方針の転換を経験することにより、受益者である住民自らが彼らの生活・住宅改善に乗り出す気運が生まれたからである。しかし、その端緒を築いたのは住民自身ではなく、タイ政府機関であるCODI（Community Organization Development Institute）がファシリテーターとして、個々のコミュニティを組織化しネットワークへ参加するように住民に働きかけた結果であった。そのコ



タイにおけるコミュニティネットワークのイメージ (CODI作成)

ミュニティネットワークは1992年から試行錯誤を繰り返しながらも、今日まで着実に成果をあげてきている。ネットワークは、コミュニティが抱える問題解決にあたり、その都度必要な組織が形成され、問題の解決を見るとネットワークは解消されるというテーマ主義的な特徴が見られる。そのプロセスから、コミュニティ開発におけるコミュニティネットワークの有効性の分析軸として、社会運動論的アプローチが有効であると考えている。

国際シンポジウム 環境共生社会の交通

日時：2007年7月6日(金)

12:30 開場

会場：東洋大学 白山キャンパス・井上円了ホール

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

共催：(財)豊田都市交通研究所

プログラム

13:30-15:30 基調講演

15:50-17:10 パネルディスカッション

17:30- レセプション

☆入場無料

☆同時通訳付き

※お申し込み：事務局宛にお名前、ご所属、お電話番号、ご出席（シンポジウム・レセプションの別）を添えてお申し込みください。

E-mail: orc@itakura.toyo.ac.jp

～持続可能な交通まちづくり(仮)

■講演者（敬称略）

ジャイメ・レルネル

（ブラジル・クリチバ元市長）

ジョージ・ヘイゼル

（英国ロバート・ゴードン大学名誉教授、OBE）

太田勝敏

（東洋大学国際共生社会研究センターチームリーダー）

■パネリスト（敬称略）

望月真一（アトリエUDI都市設計研究所代表取締役）

中村文彦（横浜国立大学教授）

マリ・クリスティーヌ（異文化コミュニケーター）

電話・FAX：0276-82-9140